

取組実績の概要（2ページ以内）

岡山大学は、平成 24 年に全国の国立大学で初めて国際バカロレア (IB : International Baccalaureate) 入試を採用し、書類審査のみによる選抜や秋入学など先進的な試みを行ってきた。以下に、本事業における岡山大学の取組と成果に関して報告する。

IB 入試の展開【多面的・総合的な入試】

1) IB 入試拡大の経緯

本事業の申請時での主な目標は、全学部・学科において IB 入試を実施することと、IB 生 (IB 校出身学生、IB 修了生、IB ディプロマ (DP) 修了生を含め、以下 IB 生と言う) の数を学生定員の 5% に拡大することであった。IB 入試は平成 24 年 4 月入学生を対象に 5 部局で開始し、平成 25 年に 1 部局において 10 月入学を、平成 26 年 4 月入学生からは 1 学部が加わった。さらには、平成 27 年 4 月の入学者から全 11 学部と 1 コースで実施を開始した。

2) 入試実施における内容の検証と改革

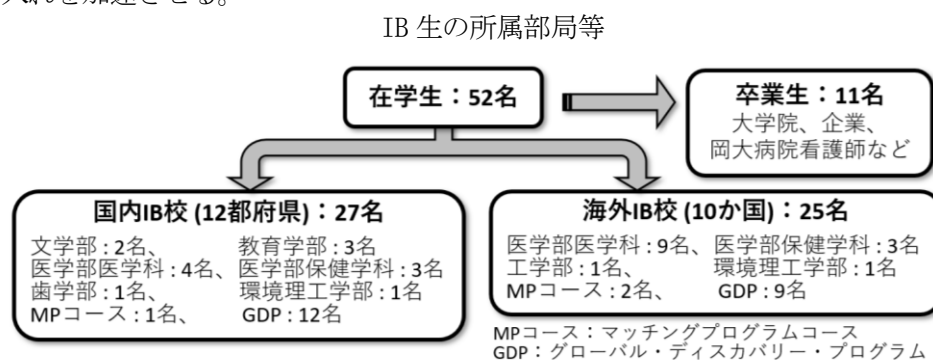
原則書類審査のみによる入試を全学展開するに当たって、国内外の IB 校の訪問、IB 教育に関与する教員による講演会の開催、IB 校と日本の高校の科目との比較等を実施した。その結果、IB 教育と DP 資格は、大学入学資格として十分評価できることを確認し、書類審査のみで受け入れることを原則とする入試を全学的に実施した。

IB 入試では、学部・学科ごとに、各アドミッションポリシーに照らし、IB 教育課程での履修科目及びその成績を指定しているが、これまでの IB 生の資質を評価し、履修を課す科目の変更や日本語の要件を緩和するなどの改正を行った。

DP 資格取得の最終試験の実施が 7 月あるいは 1 月に行われるため、本学でも、予測点に基づく入試判定を行ってきたが、1 条校等からの、より多様な人材を受け入れるために、平成 30 年度入学生からは 8 月と 10 月の 2 期の募集を行うこととした。

3) 入学者等の推移と成果

本学に現在在籍している 52 名の IB 生の内訳を下記の図に示す。国内と海外の IB 校からの入学生はほぼ同数であり、グローバル・ディスカバリー・プログラムや医学部医学科の在學生は 10 名を超えている。これまでの卒業生は 11 名であり、進路は大学院進学、本学大学病院 (看護師)、企業等である。IB 入試の全学部・全学科への拡大は達成されたが、今後は、全ての学部への IB 生の入学を推進し、大学全体として IB 生の受け入れを加速させる。



下記に、平成 24 年度から令和 2 年度までの志願者数、合格者数及び入学者数 (4・10 月入学の合計) の推移を示す。現状では入学定員の 0.5% 程度 (令和元年度) である。一方、本学の IB 入試志願者の数は着実に増加していることや、日本語による DP プログラム実施校を中心に認定校は増加しており、今後、国内の IB 生が大幅に増加することが見込まれる。このような現状を踏まえ、定員を全学生定員の 5% 程度まで増やすという目標を堅持し、今後も IB 入試を拡充し、多面的、総合的に評価・判定する入学者選抜への転換を推し進めていく。

国際バカロレア入試の推移 (令和 2 年度は 4 月入学者数のみ)

年 度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	合計
志願者数	1	4	7	15	17	33	36	45	55	213
合格者数	1	4	6	10	13	23	22	31	25	135
入学者数	1	1	3	5	5	13	10	18	9	65

全学的な入学者選抜の在り方を評価・検証・改善できる体制の整備、高校や教育委員会との定期的な意見交換の場の設定が行われているか。【高校等との意見交換】

全学的な入学者選抜の検討は、各部署の代表等から構成される全学アドミッション委員会を中心に行っている。入学者選抜について高等学校等と意見を交換する場としては、「県内高等学校長と岡山大学との懇談会」を年1回開催していたが、機動的かつ具体的に意見交換できる場として、平成27年度に岡山県高等学校長協会からの代表や本学の教職員から構成される「県内高等学校と岡山大学との高大接続ワーキンググループ」を組織した。これにより、高大接続改革の動向や高等学校教育改革の状況について共通理解を涵養することが可能となった。

入学後の成績との相関分析や学生等を対象とした調査等により、事業の成果を確実に把握し、改善に繋がっているか。【成果を踏まえた取組の改善】

毎年度、入試方法ごとに、合否入れ替わり率や配点の妥当性を検証し、各部署と共に入試方法の検証、改善方法を検討している。また、新入生全員に英語の外部検定試験を受験させ、センター試験及び個別試験の得点との相関分析、入試方法の変更に伴う英語能力の変化などを、英語教育の改善に利用している。さらに、入学時に包括的なアンケート調査を行い、学部別入試方法ごとに入学者のGPAの追跡調査と関連させて分析することにより、カリキュラムポリシーに沿った入学後の教育に対応できる学生の入学者選抜が行われているのかを検証している。

専門人材の活用等により、教員の入試業務への負担が軽減されるなど従前入試業務の合理化に繋がっているか。【業務の合理化】

本学の高大接続・学生支援センターには、専任教員4名、事務職員10名を配置し、入試業務（実施、広報業務を含む）を担当し、各部署の教員の入試業務への負担軽減を図ってきている。また、国際バカロレア入試において、書類審査のみでの受け入れを原則としたことで、問題作成・採点等の業務負担から解放されている。

【必須指標の達成度】

	平成25年度 (起点)	令和元年度	
		目標	実績
多様な評価尺度による入学者選抜を経た募集人員の割合	20.0%	30.0%	23.7%
入学者選抜に従事する役割分担別教職員の割合 【選抜方法の検討】	23.5%	31.8%	30.4%
入学者選抜に従事する役割分担別教職員の割合 【選抜の実施：教員】	5.0%	11.9%	13.6%
入学者選抜に従事する役割分担別教職員の割合 【選抜の実施：職員】	20.0%	21.2%	28.1%
入学者選抜に従事する役割分担別教職員の割合 【合否判定】	23.5%	33.3%	31.8%
入学者選抜に従事する役割分担別教職員の割合 【入試担当職員】	37.5%	31.6%	37.1%
入学者選抜に従事する役割分担別教職員の割合 【入試方法評価・分析】	100.0%	100.0%	100.0%
アドミッションオフィサー数	0人	2人	2人